

システムズアプローチ基礎コース

「家族への対応と関係性へのアプローチ」

本コースは、家族療法やシステムズアプローチに関心のある方、現場で家族への対応や支援に関わり、実践に役立てたい方を対象としたものです。システムズアプローチの立場から、家族臨床のポイントについて、3回にわたってその入り口から応用について取り扱います。「家族をどう理解し、関わるか」を主に取り上げ、なるべく専門用語を用いずポイントの説明を行います。具体的な事例をもとにした講義と実践の紹介、簡単な演習やグループワークにより、家族への対応と関係性への臨床実践につなげる内容となります。

これまでの学習経験や習熟度は問いません。また、分からないことや疑問点などあれば、遠慮なくお尋ねください。積極的なご参加をお待ちしております。

第1回：システムズアプローチによる家族臨床と関係性へのアプローチの実際

- ・ 家族療法の歴史から：家族研究の文脈と関係性への視点。その功罪とその後の展開
- ・ 問題の内容ではなく、それに関わる“関係”を扱うこと
- ・ 家族や関係者の関係を「原因」「悪いこと」とするのではなく、「行き詰っている」と見る
- ・ 「問題」について、家族や関係者が対応しやすい関わり・関係へと働きかける
- ・ 講師による具体的な実践事例の紹介と、グループディスカッション⇒Q&A

第2回：家族を一つのまとまり（システム）とし、そこでの関係や動きを理解する。

- ・ 普段の生活での、家族の課題への対応の仕方や関わり方と、臨床的な問題の発生
- ・ さまざまな家族構造と、自律性、境界：俗に言う母子密着や嫁姑関係などを例に
- ・ 家族ライフサイクル：家族の発達段階とその課題、起こりやすい臨床的問題
- ・ 資源の乏しい家族を援助する：公的機関や社会的資源による援助を含めて考える

第3回：関係性の図示と、ジョイニング

- ・ 関係者の関係を＋とーの線でつなく。ニーズを加え、動きのある線として図示化する
- ・ コンテキスト：どんな視点や状況における関係の良し悪しかを押さえる
- ・ 関係の全体を視覚的に整理し、実践へ活用する
- ・ 個人への援助と、家族など複数の人への援助の違いと、ジョイニングの基礎
- ・ 関係者間の関係の中で、誰の立場でどう関わるか。
- ・ 援助者側がチームで関わる場合：それぞれの役割に基づいたジョイニング

◇日時：第一回：2018年5月20日（日）、第二回：6月24日（日）、第三回：8月26日（日）
いずれも 10：00～16：00（昼休憩一時間を含む）

◆**会場**：板橋グリーンホールならびに板橋文化会館 <http://www.itabun.com/index.html>

第一回：板橋グリーンホール502会議室、第二回：板橋グリーンホール501会議室、
第三回：板橋文化会館第4会議室

◇**参加費**：15000円（全3回）

◆**参加条件**：システムズアプローチや家族療法に関心がある方。現場での家族への対応・支援に役立たい方など。なお、職種や現場は問いません。大学院生も可。

◇**定員**：15名

*コース受講の方が優先となりますが、各回単発でのご参加も可能です。その場合、各回7000円となります。

◆**講師**：中野真也（心理技術研究会 世話人代表／日本家族研究・家族療法学会認定スーパーヴァイザー）、尾形広行（獨協医科大学埼玉医療センター／心理技術研究会）、辻本聡（青峰会くじらホスピタル／心理技術研究会）

◇**申込み方法**：下記メールアドレスに、①お名前、②ご所属、③ご職種、を明記の上、お申込みください

◆**文献**：参加にあたり、なるべく「中野真也・吉川悟著 システムズアプローチ入門——人間関係を扱うアプローチによるコミュニケーションの読み解き方（ナカニシヤ出版）」をお読み下さい。

shinrigijyutukenkyukai115@yahoo.co.jp

注1：参加費は事前振込となります。申込後に振込口座をお知らせいたします

注2：当方の都合による中止以外は参加費の返金は致しません。予めご了承ください